

トリミング実習 I

動物理学療法看護学科専門科目 1年 前期・後期 140時間 5単位 実習 必修

講師 佐山百合子 森香 内田英和 大田ひとみ 鈴木彩乃 富山幹太

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【佐山百合子含む6名】トリミングサロンにおけるトリミング業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	NAVA トリマー3級ライセンスの取得を目指す。
学 び の キーワード	ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり、シャンプー、リンス、ブロー、ハサミ、アタッチメントコーム
準備学習及び復習の内容・履修条件	ペットスタイリスト入門Iで学んだ事をよく復習しておく 動物総合基礎実習で学んだ事をよく復習しておく
授業方法	実際に手本を見せながら指導していく
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。実習への出席30%、期末試験70%で評価する。
備 考	授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。 授業内容は、個々の技量により変更することがある
授業回数	
9月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、受付対応
10月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、受付対応
11月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、受付対応

12月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、受付対応
1月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、受付対応
2月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、体カット、受付対応

トリミング実習Ⅱ

動物理学療法看護学科専門科目 2年 前期・後期 153時間 5単位 実習 必修

講師 佐山百合子 森香 内田英和 大田ひとみ 鈴木彩乃 富山幹太

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【佐山百合子含む6名】トリミングサロンにおけるトリミング業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	動物病院でのトリミング業務を担えるよう実技の習得とNAVAトリマーライセンス2級の取得を目指す。
学 び の キーワード	ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり、シャンプー、リンス、ブロー、ハサミ、アタッチメントコーム、カット、
準備学習及び復習の内容・履修条件	ペットスタイリスト入門Ⅰ、トリミング実習Ⅰで学んだ事をよく復習しておく 動物総合基礎実習で学んだ事をよく復習しておく
授業方法	実際に手本を見せながら指導していく
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。実習への出席30%、期末試験70%で評価する。
備 考	授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。 授業内容は、個々の技量により変更することがある
授業回数	
4月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、受付対応
5月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、体カット、受付対応

6月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、体カット、顔カット、受付対応
7月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、体カット、顔カット、受付対応
9月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、体カット、顔カット、受付対応
10月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、体カット、顔カット、受付対応
11月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、体カット、顔カット、受付対応
12月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、体カット、顔カット、受付対応
1月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、体カット、顔カット、受付対応
2月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、体カット、顔カット、受付対応

公衆衛生学

動物理学療法看護学科専門科目 1年後期・2年前期 60時間 4単位 講義

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の疾病予防、衛生管理について学ぶ。
学ひのキーワード	環境衛生、食品衛生、食中毒、疫学、人獣共通感染症、薬剤耐性菌等
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書の該当部分を読んでおくこと。各授業後にはノートの復習をすること。
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備考	動物看護の教科書3巻（緑書房）
授業回数	
1回	公衆衛生の定義、目的、対象領域
2回	人獣共通感染症（定義・現状・新興、再興感染症）
3回	人獣共通感染症（伝播様式・予防対策）
4回	人獣共通感染症（ウイルスによるもの）
5回	人獣共通感染症（狂犬病・高病原性鳥インフルエンザ）
6回	人獣共通感染症（エボラ出血熱・ニパウイルス感染症）
7回	人獣共通感染症（Bウイルス病・ウエストナイル熱）
8回	人獣共通感染症（細菌によるもの）
9回	人獣共通感染症（レプトスピラ症・パスツレラ症）
10回	人獣共通感染症（カンピロバクター・ブルセラ症）
11回	人獣共通感染症（サルモネラ症・腸管出血性大腸菌感染症）

12回	人獣共通感染症（破傷風・細菌性赤痢・ペスト）
13回	人獣共通感染症（真菌によるもの）
14回	人獣共通感染症（皮膚糸状菌症・クリプトコッカス症）
15回	人獣共通感染症（原虫によるもの）
16回	人獣共通感染症（トキソプラズマ症・ジアルジア症）
17回	人獣共通感染症（寄生虫によるもの）
18回	人獣共通感染症（線虫・条虫・節足動物からくるもの）
19回	消毒について（消毒薬・消毒法）
20回	滅菌について（滅菌法） 評価試験

産業動物学

動物理学療法看護学科専門科目 1年後期・2年前期 45時間 3単位 講義

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ。
学 び の キーワード	産業動物の種類 品種 飼養管理法 畜産業（牛 馬 豚 綿羊 山羊 鶏） 農場HACCP 産業動物の福祉
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書の該当部分を読んでおくこと。各授業後にはノートの復習をすること。
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	動物看護の教科書2巻（緑書房） 講師：藤田（動物病院にて実務経験7年）
授業回数	
1	産業動物とは 畜産とは 産業動物の種類（牛）
2	産業動物の種類（牛 豚 鶏）
3	産業動物の種類（綿羊 山羊）
4	産業動物の福祉（5つの自由 獣医師の役割 飼養者の義務）
5	産業動物 牛 解剖生理
6	産業動物 解剖生理 飼養管理
7	産業動物 豚 解剖生理
8	産業動物 解剖生理 飼養管理

9	産業動物 鶏 解剖生理
10	産業動物 解剖生理 飼養管理
11	産業動物 馬 解剖生理
12	解剖生理 飼養管理
13	産業動物 綿羊 解剖生理 飼養管理
14	産業動物 山羊 解剖生理 飼養管理
15	耐性菌問題 農場H A C C P 期末試験

実験動物学

動物理学療法看護学科専門科目 1年 前期 15時間 1単位 講義

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	看護対象に含まれる実験動物について知識を広め、専門職として活躍できる能力を身につける。職域を広げ社会的な認知を得られる動物看護師を目指す。
学 び の キーワード	実験動物 3R 関連法規 マウス ラット モルモット ウサギ スナネズミ サル等 近交系 毒性学 クローズドコロニー 交雑群 無菌動物 ノトバイオート動物 SPF 動物 コンベンショナル動物
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書の該当部分を読んでおくこと。各授業後にはノートの復習をすること。
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	動物看護の教科書2巻（緑書房）
授業回数	
1 回	実験動物とは 動物実験の歴史 関連法規
2 回	3R とは 代表的な実験動物の種類
3 回	毒性学 遺伝学的統御（近交系 クローズドコロニー 交雑群）
4 回	微生物学的統御（無菌 ノトバイオート SPF コンベンショナル）
5 回	栄養学的統御 住環境統御 実験動物の健康と安全 評価試験

就職対策実践講座 I

動物理学療法看護学科専門科目 1年 後期 28時間 1単位 実習 必修

講師 藤田圭佑 友成公一 野瀬修央 倉田健

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務 【友成公一】動物病院において院長で医師として診察・治療 【倉田健】動物病院における診察・治療 【野瀬修央】動物園における獣医療・研究・種の保存に係る業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	オープンキャンパスを通して、就職対策講座で学んだ接客対応を実践し、社会で通用する技術を学び、サービス精神を理解する。
学 び の キーワード	接客 接客 あいさつ 言葉遣い ノンバーバルコミュニケーション
準備学習及び復習の内容・履修条件	オープンキャンパスの事前情報を確認しておくこと。 終了後に設定した課題の自己評価を行うこと。評価はレポートとして提出をする。
授業方法	オープンキャンパスへの参加を授業としている。オープンキャンパス終了後にレポートを担当教員へ提出すること。
成績評価基準	出席 30%。レポート提出・実習内容評価 70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	
授業回数	
1 回	挨拶 言葉遣い 笑顔 接客対応の実践
2 回	挨拶 言葉遣い 笑顔 接客対応の実践
3 回	挨拶 言葉遣い 笑顔 接客対応の実践 報告 連絡 相談
4 回	挨拶 言葉遣い 笑顔 接客対応の実践 報告 連絡 相談

就職対策実践講座Ⅱ

動物理学療法看護学科専門科目 2年 前期 63時間制 2単位 実習 必修

講師 藤田圭佑 友成公一 野瀬修央 倉田健

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務 【友成公一】動物病院において院長で医師として診察・治療 【倉田健】動物病院における診察・治療 【野瀬修央】動物園における獣医療・研究・種の保存に係る業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	就職対策実践講座Ⅰからさらに、仲間同士でのコミュニケーション、教員（上司に相当）とのコミュニケーションを通して、社会での自分自身の立場を理解しながら目的を果たせるか実践を通して習得する。
学 び の キーワード	接遇 接客 あいさつ 言葉遣い ノンバーバルコミュニケーション 院内コミュニケーション
準備学習及び復習の内容・履修条件	オープンキャンパスの事前情報を確認しておくこと。 終了後に設定した課題の自己評価を行うこと。評価はレポートとして提出をする。
授業方法	オープンキャンパスへの参加を授業としている。オープンキャンパス終了後にレポートを担当教員へ提出すること。
成績評価基準	出席 30%。レポート提出・実習内容評価 70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	
授業回数	
1	挨拶 言葉遣い 笑顔 接遇対応の実践 院内コミュニケーション
2	挨拶 言葉遣い 笑顔 接遇対応の実践 院内コミュニケーション
3	挨拶 言葉遣い 笑顔 接遇対応の実践 院内コミュニケーション
4	挨拶 言葉遣い 笑顔 接遇対応の実践 院内コミュニケーション
5	挨拶 言葉遣い 笑顔 接遇対応の実践 院内コミュニケーション

6	挨拶	言葉遣い	笑顔	接客対応の実践	院内コミュニケーション
7	挨拶	言葉遣い	笑顔	接客対応の実践	院内コミュニケーション
8	挨拶	言葉遣い	笑顔	接客対応の実践	院内コミュニケーション
9	挨拶	言葉遣い	笑顔	接客対応の実践	院内コミュニケーション

動物医療コミュニケーション

動物理学療法看護学科専門科目 1年 前期・後期 30時間 2単位 講義

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。
学 び の キーワード	クライアントエデュケーション 院内コミュニケーション 病院マネジメント グリーフケア
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を読んでおくこと。各授業後のノートの内容を復習すること
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	動物看護の教科書1巻（緑書房）
授業回数	
1	動物病院におけるクライアントエデュケーションとは 方法と効果 クライアントサービスとは
2	動物病院で行われるクライアントエデュケーション（健康管理 衛生管理）
3	動物病院で行われるクライアントエデュケーション（狂犬病予防 避妊去勢）
4	動物病院で行われるクライアントエデュケーション（ワクチン接種）
5	動物病院で行われるクライアントエデュケーション（寄生虫予防）
6	院内コミュニケーション（受付）
7	院内コミュニケーション（外来 電話対応 クレーム）
8	スタッフコミュニケーション
9	院内マネジメント

動物医療コミュニケーション

動物理学療法看護学科専門科目 1年 前期・後期 30時間 2単位 講義

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。
学 び の キーワード	クライアントエデュケーション 院内コミュニケーション 病院マネジメント グリーフケア
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を読んでおくこと。各授業後のノートの内容を復習すること
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	動物看護の教科書1巻（緑書房）
授業回数	
1	動物病院におけるクライアントエデュケーションとは 方法と効果 クライアントサービスとは
2	動物病院で行われるクライアントエデュケーション（健康管理 衛生管理）
3	動物病院で行われるクライアントエデュケーション（狂犬病予防 避妊去勢）
4	動物病院で行われるクライアントエデュケーション（ワクチン接種）
5	動物病院で行われるクライアントエデュケーション（寄生虫予防）
6	院内コミュニケーション（受付）
7	院内コミュニケーション（外来 電話対応 クレーム）
8	スタッフコミュニケーション
9	院内マネジメント

動物医療関連法規

動物物理学療法看護学科専門科目 3年 前期・後期 20時間 1単位 講義

講師 谷平桃子

実務経験のある教員等による授業科目	無
実務経験の内容	
学科・クラス指定等	動物物理学療法看護学科
学習目標	動物に関する代表的な法規を学び、社会における人と動物の関係を理解するとともに、動物看護師の社会的立場を理解する。
学 び の キーワード	獣医師法、獣医療法、感染症予防法、家畜伝染病予防法等
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を読んでおく。 授業後のノートは必ず復習する。
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	動物看護の教科書1巻（緑書房）
授業回数	
1 回	獣医師法（獣医師と動物看護師の職務について）
2 回	獣医師法（獣医師法の内容）
3 回	獣医療法（獣医療法の内容）
4 回	獣医療法（施設への必要事項）
5 回	感染症予防法（対象動物と対象疾患）
6 回	家畜伝染病予防法（対象動物と対象疾患）
7 回	社会人として知っておくべき法律（民法）

動物外科看護学

動物理学療法看護学科専門科目 3年 前期・後期 60時間 4単位 講義

講師 藤田圭佑 友成公一

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務 【友成公一】動物病院において院長で医師として診察・治療
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。
学 び の キーワード	術前管理 手術室管理 滅菌消毒法 術前準備 麻酔 手術器具 術中管理 術後管理
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を読んでおくこと。各授業後のノートの内容を復習すること
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	動物看護の教科書 6巻（緑書房）
授業回数	
1	動物外科看護技術総論（手術環境 手術チーム 手術準備）
2	手術前準備（血管確保 輸液）
3	手術準備（手術器具の管理 手術室の準備）
4	手術準備（片づけ） 周術期（麻酔の導入）
5	術後管理（動物看護記録について）
6	術後管理（ペインスケール 栄養管理）
7	術後管理（衛生管理）

8	手術器具関連（メス 剪刀 鉗子）
9	手術器具関連（把持鉗子 縫合器具 吸収糸）
10	手術器具関連（非吸収糸 モノフィラメント マルチフィラメント）
11	手術器具関連（糸の太さ 針の形状 使用期限）
12	手術器具関連（ドレープ 電気メス）
13	麻酔関連知識（麻酔前評価 全身麻酔と局所麻酔）
14	麻酔関連知識（麻酔前投与・先制鎮痛）
15	麻酔関連知識（全身麻酔薬）
16	麻酔関連知識（麻酔記録 モニタリングについて）
17	基本的な手術 避妊手術
18	基本的な手術 去勢手術
19	基本的な手術 四肢・肛門周囲の手術
20	総復習 評価試験

動物外科看護学実習

動物理学療法看護学科専門科目 3年 前期・後期 90時間 3単位 実習 必修

講師 友成公一 藤田圭佑 野瀬修央

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務 【友成公一】動物病院において院長で医師として診察・治療 【野瀬修央】動物園における獣医療・研究・種の保存に係る業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	手術準備や術中・術後管理、麻酔管理、麻酔準備、麻酔監視、手術補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識を体現し、即戦力となる実践力を身につける。
学 び の キーワード	手術器具（一般、整形、歯科等） 縫合針糸 ドレープ ガウン 滅菌消毒薬 術前準備 手洗い 手術助手 開腹手術 卵巣子宮全摘出術 去勢手術 帝王切開 整形外科手術 麻酔管理 周術期管理 モニタリング 心肺蘇生法 術後管理 鎮痛薬 麻酔薬
準備学習及び復習の内容・履修条件	動物看護入門Ⅰ、動物看護基礎実習で受講した内容を復習しておくこと。動物外科看護学講義用テキストで、実習と関連のあるところを予習しておくことが望ましい。付属動物病院院長の許可を受ければ、実習内容の復習を付属動物病院で行っても良い。
授業方法	回数3コマ分をひとくくりとして実習を行う。系列動物病院である〈動物の病院〉が実習場所となり、実際の医療器具や薬品・消耗品を使って行う。必ず白衣を着用して実習に望むこと。必要に応じて資料を配付するが、メモ帳を携行して重要事項を書き留めておくこと。医療器具撮影の限りにおいて、携帯電話の携行を許可する。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備考	動物看護の教科書第6巻（緑書房）その他

回数	授業内容
1～3	無菌、滅菌、消毒の違いについて学ぶ。また、無菌操作の重要性とポイントについて学ぶ。
4～6	手術器具① 器具の名称を覚える。
7～9	手術器具② 器具の役割と用途について学ぶ。
10～12	写真又は実物を用いて、手術器具の名称を覚えたか小テストを行う。
13～15	術前準備① 手術室の環境管理について学ぶ。
16～18	術前準備② オートクレーブ、ガス滅菌器を用いて、手術器具の滅菌を実践する。
19～21	術前準備③ 術前の飼い主(動物の絶食・絶水・排尿等)への注意事項や術前検査について学ぶ。
22～24	術前準備④ 手洗い、術着の脱着と介助、グローブの装着について学ぶ。
25～27	術中補助① 麻酔導入時の補助、必要な器具について学ぶ。
28～30	術中補助② 動物の手術台への固定、毛刈り、術野の消毒法について学ぶ。
31～33	術中補助③ 生体モニター機器の接続とその正常範囲について学ぶ。
34～36	術中補助④ 直接補助について学ぶ。
37～39	術中補助⑤ 間接補助について学ぶ。
40～42	術中補助⑥ 麻酔の導入から覚醒までの麻酔記録の書き方について学ぶ。
43～45	器具の操作法を問う実技試験と確認のための筆記試験を行う。
46～48	術後管理① 術後の創傷管理(ネット・カラーの装着、テーピング等)について学ぶ。
49～51	術後管理② 術後動物のモニタリングについて学ぶ。
52～54	術後管理③ 医療廃棄物の処理、使用した手術器具の洗い、手術室の清掃法について学ぶ。
55～57	手術体験① 犬もしくは猫の去勢手術を体験する。
58～60	手術体験② 犬もしくは猫の避妊手術を体験する。
61～63	犬の帝王切開手術をビデオで学ぶ。
64～66	内視鏡による検査や異物摘出をビデオで学ぶ。
67～69	CT・MRI検査をビデオで学ぶ。
70～72	レントゲン写真① 正常レントゲン写真で、犬猫の骨格を学ぶ。

73～75	レントゲン写真② 正常レントゲン写真で、犬猫の頭部、頸部、胸部について学ぶ。
76～78	レントゲン写真③ 正常レントゲン写真で、犬猫の腹部について学ぶ。
79～81	救急対応① 麻酔中の心肺停止の兆候と処置について学ぶ。
82～84	救急対応② 心肺蘇生法について学ぶ。
85～87	術中、術後のペインコントロールとそれに用いる薬剤について学ぶ。
88～90	器具の操作法を問う実技試験と確認のための筆記試験を行う。

動物感染症学

動物理学療法看護学科専門科目 1年 前期・後期 52時間 3単位 講義

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	微生物・寄生虫の分類や生物学的特性、伝播様式、発病の機序を学び感染症対策の基礎を修得する。
学 び の キーワード	細菌、真菌、ウイルス、原虫、吸虫、条虫、線虫、節足動物、自然免疫、獲得免疫、ワクチン、アレルギー、消毒、滅菌、衛生管理、抗体
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を読んでおくこと。各授業後のノートの内容を復習すること
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備考（テキスト）	動物看護の教科書3巻（緑書房）
授業回数	
1回	感染経路（伝播様式について） 宿主について
2回	細菌（性状・構造・分類）
3回	真菌（性状・構造・分類）
4回	ウイルス（性状・構造・分類）
5回	原虫（性状・構造・分類）
6回	イヌやネコの原虫感染症について
7回	内部寄生虫（条虫、吸虫）
8回	外部寄生虫 昆虫類
9回	感染症の予防について（法律、衛生教育）

10回	生ワクチンと不活化ワクチン
11回	ワクチンの副作用 コアワクチン・ノンコアワクチン
12回	特異的防御機構
13回	非特異的防御機構
14回	液性免疫と抗体
15回	生態防御関連臓器（リンパ節・胸腺・脾臓）
16回	アレルギー分類
17回	滅菌（滅菌法・特徴） 消毒液
18回	評価試験

動物看護学概論

動物理学療法看護学科専門科目 1 年前期・後期 60 時間 4 単位 講義

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。
学 び の キーワード	獣医療の歴史 動物看護の歴史 資格制度 職域 職務範囲 動物看護の倫理綱領 動物看護過程 獣医療倫理 インフォームドコンセント
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書の該当部分を読んでおくこと。各授業後にはノートの復習をすること。
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	動物看護の教科書1巻（緑書房）
授業回数	
1 回	動物看護の基本 看護の定義 対象と目的
2 回	求められる視点 能力 動物看護師の役割 必要な知識
3 回	倫理綱領とは 動物看護者の倫理綱領
4 回	動物看護師の職能団体とは
5 回	動物看護師に関する資格制度 資格認定機関
6 回	動物看護師に関する代表的な組織、団体 国際的な資格
7 回	動物看護技術とは 動物看護技術の範囲
8 回	コミュニケーション 保定
9 回	報告 環境整備技術

10 回	生活の補助技術 診療補助技術
11 回	投薬補助技術 麻酔補助技術
12 回	輸液輸血 救急救命
13 回	インフォームドコンセントについて
14 回	死の看取り ホスピスケア 死別 悲嘆 ペットロス
15 回	動物看護過程の実際 高齢犬介護 アセスメント
16 回	動物看護過程の実際 高齢犬介護 診断 計画
17 回	動物看護過程の実際 高齢犬介護 実践 評価
18 回	獣医療の歴史 家畜化と獣医療 日本の歴史と獣医療
19 回	動物看護の歴史 動物看護師 資格の統一化
20 回	評価試験

動物看護総合実習 I

動物理学療法看護学科専門科目 1年 前期・後期 80時間 2単位 実習 必修

講師 友成公一 藤田圭佑 野瀬修央 倉田健

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	<p>【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務</p> <p>【友成公一】動物病院において院長で医師として診察・治療</p> <p>【倉田健】動物病院における診察・治療</p> <p>【野瀬修央】動物園における獣医療・研究・種の保存に係る業務</p>
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身に付けた知識や技術を総合的に実践する。また、様々な職場での実習を通して、動物関連業務における広い見識を身につける。
学 び の キーワード	接遇マナー 院内コミュニケーション クライアントエデュケーション 動物看護業務
準備学習及び復習の内容・履修条件	動物医療コミュニケーション、動物臨床看護学（各論・総論）はノートを復習しておくことが望ましい。実習終了後にはレポートをまとめ担当教員へ提出すること。
授業方法	[学校系列動物の病院]内にて、実習形式で行う。
成績評価基準	実習への参加 30%、実習後の担当指導者からの評価 35%、最終回において看護業務についての評価試験を実施 35%により評価する。なお、評価試験とは筆記試験になる。
備 考	
授業回数	
1 ～30 時間	<p>接遇マナー（あいさつ、会釈、適切な言葉遣い、身だしなみ）</p> <p>院内コミュニケーション（スタッフとのコミュニケーション、受付対応）</p> <p>クライアントエデュケーション（診察室への誘導、呼び出し）</p> <p>動物看護業務（消毒、片づけ、院内清掃、簡単な保定）</p>

31～80 時間	接遇マナー（あいさつ、会釈、適切な言葉遣い、身だしなみ） 院内コミュニケーション（スタッフとのコミュニケーション、受付対応） クライアントエデュケーション（診察室への誘導、呼び出し） 動物看護業務（消毒、片づけ、院内清掃、簡単な保定、検査補助、調剤補助、外科手術補助、備品補充作業）
----------	--

動物看護総合実習Ⅱ

動物理学療法看護学科専門科目 2年 前期・後期 150時間 4単位 実習 必修

講師 友成公一 藤田圭佑 野瀬修央 倉田健

実務経験のある授業科目	有
実務経験の内容	<p>【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務</p> <p>【友成公一】動物病院において院長で医師として診察・治療</p> <p>【倉田健】動物病院における診察・治療</p> <p>【野瀬修央】動物園における獣医療・研究・種の保存に係る業務</p>
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身に付けた知識や技術を総合的に実践する。また、様々な職場での実習を通して、動物関連業務における広い見識を身につける。
学 び の キーワード	接遇マナー 院内コミュニケーション クライアントエデュケーション 動物看護業務 外科手術業務 入院看護業務 院内総合業務
準備学習及び復習の内容・履修条件	動物医療コミュニケーション、動物臨床看護学（各論・総論）はノートを復習しておくことが望ましい。実習終了後にはレポートをまとめ担当教員へ提出すること。
授業方法	<p>[学校系列動物の病院]、提携動物病院、本人希望動物病院にて実施する。</p> <p>本人希望動物病院は相手の受入状況により変更も有り得る。</p>
成績評価基準	実習への参加 30%、実習後の担当指導者からの評価 70%として評価する。
備 考	
授業回数	
1 ～30	<p>接遇マナー（あいさつ、会釈、適切な言葉遣い、身だしなみ）</p> <p>院内コミュニケーション（スタッフとのコミュニケーション、受付対応）</p> <p>クライアントエデュケーション（診察室への誘導、呼び出し）</p>

	動物看護業務（消毒、片づけ、院内清掃、簡単な保定、検査補助、調剤補助、外科手術補助、備品補充作業）
31～60	<p>接遇マナー（あいさつ、会釈、適切な言葉遣い、身だしなみ）</p> <p>院内コミュニケーション クライアントエデュケーション</p> <p>動物看護業務（消毒、片づけ、院内清掃、簡単な保定、検査補助、調剤補助、外科手術補助、備品補充作業）</p>
61～90	<p>接遇マナー（あいさつ、会釈、適切な言葉遣い、身だしなみ）</p> <p>院内コミュニケーション クライアントエデュケーション</p> <p>動物看護業務（消毒、片づけ、院内清掃、簡単な保定、検査補助、調剤補助、外科手術補助、備品補充作業）</p>
91～150	<p>接遇マナー（あいさつ、会釈、適切な言葉遣い、身だしなみ）</p> <p>院内コミュニケーション</p> <p>クライアントエデュケーション</p> <p>動物看護業務（消毒、片づけ、院内清掃、簡単な保定、検査補助、調剤補助、外科手術補助、備品補充作業）</p>

動物看護入門実習（動物総合基礎実習）

1 年前期 必修 24 時間制

講師 藤田・友成

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務 【友成公一】動物病院において院長で医師として診察・治療
学科・クラス指定等	1 年生全員
学習目標	トータルケアの看護技術を身につける入門編として、①犬と猫の保定②バイタルサイン③院内で行う各種検査④動物の日常ケアについて学習する。
学 び の キーワード	保定（立位、座位、伏臥位、横臥位）、バイタルサイン（体温、心拍数、呼吸数等）、血液検査、ヘマトクリット管、血液塗抹、尿検査、糞便検査（直接法）、目・耳・爪・皮膚・歯のケア
準備学習及び復習の内容・履修条件	高校生物資料集にある動物の体と機能について事前に復習しておくこと。動物の保定法は、看護技術のうち最も重要な技術との位置づけをしているので、動物の解剖整理を十分理解して、安全に実施できるよう反復練習をすること。
授業方法	全ての実習は、付属動物病院である〈動物の病院〉で白衣着用のうえ行われる。必要に応じて資料を配付するが、メモ帳を携行して重要事項を書き留めておくこと。検査器具撮影の限りにおいて、携帯電話の携行を許可する。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	動物看護の基礎（日本動物専門学校協会）
回数	授業内容
1	犬の各種保定法を見学する。
2	犬の安全な保定法のコツを見学する。
3	複数の犬を使い、立位・座位での保定を実際に行ってみる。
4	犬の伏臥位・横臥位の保定を複数人で実際に行ってみる。
5	各種保定法で行う犬の検査を見学する。

6	猫の各種保定法を見学する。
7	猫の安全な保定法のコツを見学する。
8	複数の猫を使い、各種保定を実際に行ってみる。
9	各種保定法で行う猫の検査を見学する。
10	犬・猫の直腸温を体温計で測定し、カルテに記録する。正常値を覚える。
11	犬・猫の心拍数を測定し、カルテに記録する。正常値を覚える。
12	犬・猫の呼吸数を測定し、カルテに記入する。正常値を覚える。
13	主な採血管の名前とその用途を覚える。
14	遠心分離器を用いてヘマトクリット管検査を行う。
15	血液塗抹を引き染色する。その目的を覚える。
16	犬・猫の採用法を見学する。
17	比色試験紙を用いた尿検査をする。正常異常の判定をする。
18	スピッツ管を用いて、遠心分離器で尿沈渣を確認する。
19	糞便からサンプルを採取し、スライドガラスに置きカバーガラスを被せる。
20	顕微鏡の正しい扱い方を学ぶ。
21	糞便サンプルを直接法で鏡検する。
22	犬・猫の日常ケアのためのチェック方法を学ぶ。
23	犬の目・耳・爪・皮膚・歯のケアをする。
24	猫の目・耳・爪・皮膚・歯のケアをする。

動物形態機能学 I

動物理学療法看護学科専門科目 1年後期・2年前期 45時間 3単位 講義

講師 倉田健

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【倉田健】動物病院における診察・治療
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。
学びのキーワード	細胞、組織、器官、遺伝子、血液、皮膚、運動器、神経、感覚器、循環器
準備学習及び復習の内容・履修条件	今まで学習してきた動物形態機能学を復習しておくこと。分からないことを積極的に質問し、授業で学んだことを各自で覚える(復習)こと。
授業方法	講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。
成績評価基準	講義への出席 30%、期末試験 70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備考(テキスト)	動物看護の教科書第2巻(緑書房)、動物看護の基礎(日本動物専門学校協会)
授業回数	
1 動物形態機能学総論	形態学(解剖学)、機能学(生理学)の意味、役割を知る。
2 生体のなりたち①	化学物質⇒細胞⇒組織⇒器官(臓器) ⇒器官系⇒個体
3 生体のなりたち②	生物学の復習(拡散と浸透、細胞分裂、生殖と発生、性と遺伝、生殖の方法)
4 細胞の構造と機能①	生物学の復習(細胞膜、リン脂質二重層、チャネル、ポンプ、ATP)
5 細胞の構造と機能②	細胞質、ミトコンドリア、リボソーム、粗面小胞体、滑面小胞体、ゴルジ装置、リソソーム、細胞骨格、核
6 動物の組織①	上皮組織、結合(支持)組織
7 動物の組織②	筋組織
8 動物の組織③	神経組織

9 体液と尿①	体液、細胞内液、細胞外液、細胞間質液、血漿、尿
10 体液と尿②	体液の電解質組成、アシドーシスとアルカローシス
11 血液成分とはたらき①	血液の役割、pH 調節、赤血球、Ht
12 血液成分とはたらき②	好中球、食作用、単球、リンパ球、T 細胞、B 細胞、NK 細胞
13 血液成分とはたらき③	好酸球、好酸性顆粒、好塩基球、ヒスタミン
14 血液成分とはたらき④	動物種によって異なる血球
15 総論のまとめ	期末試験対策
16 皮膚①	表皮(角質層、顆粒層、有棘層、基底層)、メラノサイト
17 皮膚②	真皮、受容器細胞(パチニ小体、筋紡錘など)
18 皮膚③	皮下組織、皮膚のターンオーバー
19 皮膚④	肉球、爪
20 骨格と筋肉①	骨格系
21 骨格と筋肉②	頸椎、胸椎、腰椎、仙椎、尾椎、肋骨、頭蓋骨、環椎、軸椎
22 骨格と筋肉③	筋肉系、骨格筋、心筋、平滑筋
23 骨格と筋肉④	前肢の筋肉(上腕三頭筋、三角筋など)、体幹の筋肉(広背筋、腹直筋など)
24 骨格と筋肉⑤	後肢の筋肉(大腿直筋、半腱様筋、縫工筋など)、
25 骨格と筋肉⑥	関節、関節軟骨
26 脳と神経①	神経細胞(ニューロン)、神経膠細胞(グリア細胞)
27 脳と神経②	中枢神経系
28 脳と神経③	末梢神経系
29 脳と神経④	大脳、脳幹、小脳、脊髄、髄膜
30 脳と神経⑤	運動神経、感覚神経、随意運動、不随意運動、反射
31 脳と神経⑥	自律神経(交感神経、副交感神経)
32 感覚器①	咀嚼、嚥下、舌、味蕾
33 感覚器②	外耳、中耳、内耳
34 感覚器③	耳道、鼓膜、蝸牛、半規管
35 感覚器④	聴覚の仕組み
36 感覚器⑤	眼瞼、第三眼瞼、角膜
37 感覚器⑥	水晶体、網膜、タペタム、視細胞(錐状体細胞、桿状体細胞)
38 循環器①	心臓、動脈、静脈、心房、心室、三尖弁、僧帽弁、肺動脈弁、大動脈弁
39 循環器②	刺激伝導系、洞房結節、ヒス束、冠動脈、心内膜、心外膜
40 循環器③	胎子循環、ボタロー管、卵円孔
41 循環器④	肺循環と体循環
42 循環器⑤	心電図

43 循環器⑥	リンパ循環
44 循環器⑦	胸腺、T細胞、B細胞
45 各論のまとめ	期末試験対策

動物形態機能学Ⅱ

動物理学療法看護学科専門科目 2年前期・後期 59時間 4単位 講義

講師 倉田健 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【倉田健】動物病院における診察・治療 【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	動物の体の構造と機能を理解する
学びのキーワード	呼吸器、消化器、内分泌、泌尿器
準備学習及び復習の内容・履修条件	今まで学習してきた動物形態機能学を復習しておくこと。分からないことを質問したり、学んだことを覚えたりすること。
授業方法	講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。
成績評価基準	講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備考	動物看護の基礎（日本動物専門学校協会）動物看護の教科書第2巻（緑書房）
授業回数	
1 呼吸器	
2 呼吸器	
3 呼吸器	
4 呼吸器	
5 呼吸器	
6 呼吸器	
7 消化器	

8 消化器	
9 消化器	
10 消化器	
11 消化器	
12 消化器	
13 泌尿器	
14 泌尿器	
15 泌尿器	
16 泌尿器	
17 泌尿器	
18 泌尿器	
19 内分泌とホルモン	
20 内分泌とホルモン	
21 内分泌とホルモン	
22 内分泌とホルモン	
23 内分泌とホルモン	
24 内分泌とホルモン	
25 生殖器	
26 生殖器	
27 生殖器	
28 生殖器	
29 生殖器	
30 総まとめ	

動物形態機能学実習

動物理学療法看護学科専門科目 1年 前期・後期 45時間 2単位 実習 必修

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	動物の身体の形態と機能を骨格標本・模型・組織像から学ぶ。
学 び の キーワード	顕微鏡 骨格標本 内臓器 主要臓器の組織画像 組織解説映像
準備学習及び復習の内容・履修条件	各回のテーマに沿った教科書の該当部分を事前に通読しておくとともに、講義した内容の理解を深めるために、板書した講義内容のノートを必ず復習しておくこと。
授業方法	全ての実習は、附属動物病院である〈動物の病院〉で白衣着用のうえ行われる。必要に応じて資料を配付するが、メモ帳を携行して重要事項を書き留めておくこと。検査器具撮影の限りにおいて、携帯電話の携行を許可する。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。実習への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	動物看護の教科書 2巻 参照
授業回数	
1～3回	イヌの身体の構造 全身骨格 身体の面 体腔と膜
4～6回	イヌの身体の構造 前肢 頭部 眼球
7～9回	イヌの身体の構造 鼻腔 耳 口腔
10～12回	イヌの身体の構造 腹部 小腸 大腸
13～15回	イヌの身体の構造 胸腔 肺 心臓
16～18回	イヌの身体の構造 泌尿器 腎臓 膀胱
19～21回	イヌの身体の構造 リンパ節 動脈 静脈
22～24回	イヌの身体の構造 神経 脳

25～27 回	動物種による身体構造の違い 猫 ウサギ（前半身）
28～30 回	動物種による身体構造の違い 猫 ウサギ（後半身）
31～33 回	動物種による身体構造の違い マウス ウマ（前半身）
34～36 回	動物種による身体構造の違い マウス ウマ（後半身）
37～39 回	顕微鏡の使い方 （名称・倍率・条件）
40～42 回	顕微鏡の使い方 （操作方法）
43～45 回	顕微鏡の使い方 （操作方法・メンテナンス）

動物内科看護学

動物理学療法看護学科専門科目 3年 前期・後期 13時間 1単位 講義

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血・投薬・輸液・輸血について理解する。
学 び の キーワード	保定 身体検査 バイタルサイン 採血法 採尿法 投薬法 輸液 輸血 救急救命
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を読んでおくこと。各授業後のノートの内容を復習すること
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	動物看護の教科書 4巻 6巻（緑書房）
授業回数	
1	一般ケア（食事 飲水 被毛 皮膚の管理）
2	一般ケア（ブラッシング シャンプー 歯磨き 運動 排泄）
3	病気予防のためのケア（毎日のチェック 定期健康診断）
4	病気予防のためのケア（V Tが行うチェック 予防知識）
5	給餌（人工給餌 方法）
6	輸液管理（目的 種類 総輸液量）
7	輸液管理（輸液ルート 必要な器具）
8	疼痛の基礎知識
9	主要症状別看護の基礎知識（痒み 吐出 嘔吐）
10	主要症状別看護の基礎知識（排便・排尿・呼吸異常）

11	救急救命対応 (救急疾患 ショック)
12	救急救命対応 (心肺停止と心肺蘇生術)
13	救急救命対応 (徐細動) 評価試験

動物内科看護学実習

動物理学療法看護学科専門科目 3年前期・後期 54時間 2単位 実習 必修

講師 藤田圭佑・友成公一・野瀬修央

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務 【友成公一】動物病院において院長で医師として診察・治療 【野瀬修央】動物園における獣医療・研究・種の保存に係る業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	内科診療の診療補助や必要とされる手技を習得する。
学ひのキーワード	保定、身体検査、バイタルチェック、院内衛生管理、採血、採尿、薬剤投与法、輸液、輸血、血液適合検査、ワクチン
準備学習及び復習の内容・履修条件	動物看護入門Ⅰ、動物看護基礎実習で受講した内容を復習しておくこと。 動物内科看護学 講義用テキストで、実習と関連のあるところを予習しておくことが望ましい。系列動物病院院長の許可を受ければ、実習内容の復習を系列動物病院で行っても良い。
授業方法	回数3コマ分をひとくりとして実習を行う。系列動物病院である<動物の病院>が実習場所となり、実際の医療器具や薬品・消耗品を使って行う。必ず白衣を着用して実習に望むこと。必要に応じて資料を配付するが、メモ帳を携帯して重要事項を書き留めておくこと。医療器具撮影の限りにおいて、携帯電話の携帯を許可する。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備考	動物看護の教科書第4・6巻（緑書房）その他
回数	授業内容
1～3	身体検査① 全身状態の評価を学ぶ。
4～6	身体検査② 定期健康診断とそれに伴う検査について学ぶ。
7～9	身体検査③ バイタルサインをスコア化し、評価できるようになる。

10～12	診察補助① 診察の準備や診察室の衛生管理について学ぶ。
13～15	診察補助② 動物・飼い主を診察室に誘導し、適切な保定とバイタルチェックを行うことを学ぶ。
16～18	診療補助③ 採血・採尿に必要な器具と手順について学ぶ。
19～21	診療補助④ レントゲン撮影・エコー検査の手順について学ぶ。
22～24	診療補助⑤ 薬剤の取扱い、処方箋に沿った調剤、経口投与の方法を学ぶ。
25～27	輸液管理① 輸液ラインに必要な機材を覚え、その準備が出来るようになる。
28～30	輸液管理② 輸液ポンプ・シリンジポンプを操作できるようになる。
31～33	輸液管理③ 輸液速度や輸液総量を個体重量や症状に合わせて考えられるようになる。
34～36	輸液管理④ 輸液中の動物を管理できるようになる。
37～39	輸血管理① 犬猫の血液型と血液適合検査の方法を学ぶ。
40～42	輸液管理② 輸血中の動物を管理できるようになる。
43～45	薬剤① ワクチンとその感染症について学ぶ。また、感染症が疑われる動物の入院管理について学ぶ。
46～48	薬剤② 呼吸器・循環器疾患の薬剤とその疾病について学ぶ。
49～51	薬剤③ 神経・消化器・生殖器疾患の薬剤とその疾病について学ぶ。
52～54	器具の操作法を問う実技試験と確認のための筆記試験を行う。

動物繁殖学

動物理学療法看護学科専門科目 2年後期 10時間 1単位 講義

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	繁殖に係わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生児管理、遺伝学の基礎知識を習得する。また、飼育に係わる管理法を学び、動物の生態や健康管理の基礎知識を習得する。
学 び の キーワード	雄雌生殖器、性周期、受精、交配、分娩、妊娠診断、新生児管理、遺伝学概論、品種、生態、飼育管理法。
準備学習及び復習の内容・履修条件	主な動物の生殖器に関係する部位を事前に学習しておくことが望ましい。また、各回のテーマに沿った教科書の該当部分を事前に通読しておくとともに、講義した内容の理解を深めるために、板書した講義内容のノートを必ず復習しておくこと。
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	動物看護の教科書4巻（緑書房）
回数	授業内容
1	雌犬雌猫の発情期と発情周期及び発情生理学について解説する。
2	繁殖の方法のうち、出産の準備、出産について解説する。
3	繁殖の方法のうち、胎盤の処置、助産について解説する。
4	繁殖の方法のうち、新生子の管理、人工哺乳、離乳について解説する。
5	犬猫を通して、遺伝学について解説する。
6	犬猫の遺伝性疾患について解説する。
7	犬猫の避妊去勢手術について解説する。

8	哺乳期の子犬の健康管理について解説する。
9	離乳後の子犬の飼養管理について解説する。
10	これまでの学習内容確認のため、期末試験を行う。

動物病理学

動物理学療法看護学科専門科目 3年前期・後期 30時間 2単位 講義

講師 倉田健

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【倉田健】動物病院における診察・治療
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。
学びのキーワード	炎症、変性、壊死、浮腫、充血、うっ血、過形成、低形成、肥大、萎縮、奇形、腫瘍
準備学習及び復習の内容・履修条件	今まで学習してきた動物形態機能学を復習しておくこと。分からないことを積極的に質問し、授業で学んだことを各自で覚える(復習)こと。
授業方法	講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。
成績評価基準	講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備考(テキスト)	動物看護の教科書第3巻(緑書房)※形態機能について分からないときに調べるため、動物看護の教科書第2巻及び動物看護の基礎(日本動物専門学校協会)も授業に持参すること
授業回数	
1 動物病理学総論①	病理学を学ぶ意味、役割を知る。疾病のさまざまな原因について。内因、外因。疾病とホメオスタシスについて。
2 動物病理学総論②	老化現象、細胞障害因子、壊死とアポトーシスについて
3 動物病理学総論③	病気の発症の機序、病気の成り立ちと変遷、臓器の変化について
4 動物病理学総論④	細胞や組織に生じる変化、組織標本の作製法について
5 退行性変化①	変成、異常タンパク質の沈着、アミロイド症について
6 退行性変化②	糖質および脂質代謝の異常について
7 退行性変化③	核酸代謝の異常について
8 退行性変化④	色素沈着症について

9 退行性変化⑤	無機質（ミネラル）代謝の異常について
10 退行性変化⑥	萎縮について
11 退行性変化⑦	細胞死、壊疽について
12 進行性変化①	肥大、増正（過形成）、再生、化生、異形成について
13 進行性変化②	肉芽組織について
14 循環障害①	充血、虚血、うっ血、出血、水腫と浮腫、脱水について
15 循環障害②	血液凝固と線溶系、播種性血管内凝固（DIC）について
16 循環障害③	血栓症、塞栓症、梗塞について
17 炎症①	炎症の原因と役割、5大徴候について
18 炎症②	炎症の経過と治癒過程について
19 炎症③	急性炎症について
20 炎症④	慢性炎症について
21 免疫病理①	免疫担当細胞、免疫不全症について
22 免疫病理②	アレルギーについて
23 免疫病理③	自己免疫疾患について
24 腫瘍①	腫瘍の定義、発生機序について
25 腫瘍②	異型性、転移、悪液質について
26 腫瘍③	腫瘍の名称（癌、肉腫）について
27 先天異常（奇形）①	先天異常とは、先天異常の原因、発生機序について
28 先天異常（奇形）②	遺伝子異常、形態的異常、組織奇形、発育異常について
29 先天異常（奇形）③	癒合不全、分離異常、位置の異常、遺残について
30 総まとめ	

動物福祉・倫理

動物理学療法看護学科専門科目 2年 後期 15時間 1単位 講義

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	動物愛護や動物福祉、およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶ。
学 び の キーワード	生命倫理 動物生命倫理 動物観 HAB IAHAIO 動物虐待 RSPCA デルタ協会 動愛法
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を読んでおくこと。各授業後のノートの内容を復習すること
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	
授業回数	
1 回 (3 時間)	生命倫理と動物生命倫理
2 回 (3 時間)	宗教と動物観の関係
3 回 (3 時間)	近代・現代の動物愛護運動
4 回 (3 時間)	動物虐待
5 回 (3 時間)	評価試験

動物薬理学

動物物理学療法看護学科専門科目 3年前期・後期 60時間 4単位 講義

講師 倉田健

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【倉田健】動物病院における診察・治療
学科・クラス指定等	動物物理学療法看護学科
学習目標	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。
学びのキーワード	投薬法、投薬量計算、薬物動態、半減期、代表的な治療薬とその応用、副作用、薬物間相互作用、耐性、中毒、薬剤管理
準備学習及び復習の内容・履修条件	今まで学習してきた動物形態機能学を復習しておくこと。分からないことを積極的に質問し、授業で学んだことを各自で覚える(復習)こと。
授業方法	講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。学期末試験を実施して学習深度の向上を図る。
成績評価基準	講義への出席 30%、期末試験 70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備考	動物看護の教科書第3巻(緑書房)※形態機能について分からないときに調べるため、動物看護の教科書第2巻または動物看護の基礎(NAVA)も授業に持参すること
授業回数	内容
1 薬総論理学とは	薬理学を学ぶ意味、目的について理解する
2 総論 薬理学とは	薬物の名前、化学名・一般名・市販名について
3 総論 薬理学とは	薬物の取り扱い、LD ₅₀ 、毒薬、劇薬について
4 薬物の剤形	内服薬、注射薬、外用薬について
5 薬物の投与方法とその特徴①	静脈内投与、経口投与、皮下投与、筋肉内投与について

6 薬物の投与方法とその特徴②	皮内投与、経皮投与、舌下投与、各投与方法と薬物濃度について
7 薬物動態①	ADME（吸収・分布・代謝・排泄）、薬物吸収プロセスについて
8 薬物動態②	分布、代謝の流れ(抱合)、糸球体と尿細管における薬物排泄について
9 薬物動態③	腸肝循環について
10 薬物の効果に影響を与える因子	薬容量、投与頻度、年齢、性別、薬物相互作用について
11 自律神経作用薬①	自律神経(交感神経と副交感神経)の分布について
12 自律神経作用薬②	自律神経の効果器(α 、 β 受容体・ムスカリン・ニコチン受容体)への伝達
13 自律神経作用薬③	効果器における交感神経と副交感神経の作用について
14 自律神経作用薬④	運動神経の伝達、リガンドと受容体について
15 自律神経作用薬⑤	副交感神経作動薬・遮断薬
16 自律神経作用薬⑥	交感神経作動薬・遮断薬
17 抗菌薬①	グラム陽性菌とグラム陰性菌について
18 抗菌薬②	β ラクタム系抗生物質、アミノグリコシド、テトラサイクリンについて
19 抗菌薬③	クロラムフェニコール、マクロライド、リンコマイシンについて
20 抗菌薬④	キノロン、サルファ剤、バンコマイシンについて
21 合成ステロイド①	視床下部-下垂体-副腎皮質から放出されるホルモンについて
22 合成ステロイド②	糖質コルチコイドの分泌・抑制機構について
23 合成ステロイド③	糖質コルチコイドの生理作用について
24 合成ステロイド④	合成ステロイドの種類について
25 合成ステロイド⑤	合成ステロイドの臨床研究について
26 合成ステロイド⑥	合成ステロイドの副作用について
27 非ステロイド性抗炎症薬①	炎症のしくみについて
28 非ステロイド性抗炎症薬②	NSAIDsの薬効メカニズムについて
29 非ステロイド性抗炎症薬③	発熱・発痛のしくみとNSAIDsの作用について

30 非ステロイド性抗炎症薬④	NSAIDsの種類について
32 循環器疾患に対する薬①	血液循環(循環器系)のについて
33 循環器疾患に対する薬②	心臓の機能不全から心不全が発症するまでの流れについて
34 循環器疾患に対する薬③	心疾患分類、血管拡張薬について
35 循環器疾患に対する薬④	レニン-アンギオテンシン系、ACE阻害薬について
36 循環器疾患に対する薬⑤	β 受容体遮断薬、強心薬について
37 循環器疾患に対する薬⑥	利尿薬、心不全治療薬の薬効と欠点について
38 嘔吐に対する薬①	嘔吐のメカニズムについて
39 嘔吐に対する薬②	嘔吐の原因と治療法の注意点について
40 嘔吐に対する薬③	制吐薬、消化管運動調節薬について
41 嘔吐に対する薬④	胃酸分泌抑制薬、胃腸粘膜保護剤について
42 下痢に対する薬①	消化器疾患(下痢)について
43 下痢に対する薬②	下痢の原因と治療法の注意点について
44 下痢に対する薬③	腸運動抑制薬、抗コリン薬について
45 下痢に対する薬④	収斂薬、殺菌薬、吸着薬、抗菌薬について
46 抗てんかん薬①	てんかんの病態生理学
47 抗てんかん薬②	抗てんかん薬による治療法の注意点、トラフ値について
48 抗てんかん薬③	フェノバルビタール、ゾニサミドについて
49 抗てんかん薬④	臭化カリウム、ジアゼパムについて
50 抗がん剤①	腫瘍細胞の増殖について
51 抗がん剤②	腫瘍細胞数と治療法の関係について
52 抗がん剤③	細胞周期と抗がん剤の作用ポイントについて
53 抗がん剤④	抗がん剤の種類について
54 薬用量の計算①	投与量の計算
55 薬用量の計算②	薬液の濃度(%)
56 薬用量の計算③	溶液の投与量の計算
57 薬用量の計算④	点滴数と投与量の計算
58 調剤法の基本①	処方せんの読み方

59 調剤法の基本②	処方せんの実例
60 総まとめ	

動物臨床栄養学

動物理学療法看護学科専門科目 2年 前期・後期 50時間 3単位 講義

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科2年
学習目標	ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌法など臨床栄養学を修得する。
学 び の キーワード	5大栄養素 ライフステージ BER RER DER 給餌計算 肥満 消瘦 BCS 総合栄養食 療法食 強制給餌 経管栄養法 静脈栄養法
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を読んでおくこと。各授業後のノートの内容を復習すること
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	動物看護の教科書4巻（緑書房）
授業回数	
1回	犬猫の栄養素の違い ペットフードの表記
2回	食事を与える際の注意①（食事の工夫）
3回	食事を与える際の注意②（与え方）
4回	ライフステージ別での食事管理 犬 猫
5回	BCS カロリー計算 エネルギー要求量について
6回	フードによる給与回数・方法 犬猫の加齢性変化について
7回	療法食 疾患別による栄養特性（下部尿路疾患 特発性膀胱炎）
8回	疾患別による栄養特性（尿路結石）
9回	疾患別による栄養特性（皮膚疾患）

10回	疾患別による栄養特性（アレルギー）
11回	疾患別による栄養特性（肥満）
12回	疾患別による栄養特性（下痢 便秘）
13回	疾患別による栄養特性（心臓病）
14回	疾患別による栄養特性（慢性腎臓病）
15回	疾患別による栄養特性（糖尿病）
16回	疾患別による栄養特性（肝臓病 関節疾患）
17回	評価試験

動物臨床看護学各論

動物理学療法看護学科専門科目 1年後期・2年前期 117時間 8単位 講義

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	様々な疾患の病態生理を理解し、引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。
学 び の キーワード	循環器疾患 呼吸器疾患 栄養代謝性疾患 消化器疾患 泌尿器疾患 内分泌疾患 生殖器疾患 整形外科疾患 皮膚疾患 脳神経疾患 眼疾患 造血器疾患 腫瘍 免疫介在性疾患 口腔内疾患 感覚器疾患 皮膚疾患 救急疾患等
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を読んでおくこと。各授業後のノートの内容を復習すること
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	
授業回数	
1	口腔内疾患（検査 疾患）
2	歯科疾患（検査 疾患）
3	感覚器疾患 耳（検査 疾患）
4	感覚器疾患 眼（検査 疾患）
5	皮膚疾患（検査 疾患①）
6	皮膚疾患（疾患②）
7	循環器疾患（検査 疾患①）
8	循環器疾患（疾患②）

9	循環器疾患 リンパ (検査 疾患)
10	呼吸器疾患 (検査 疾患①)
11	呼吸器疾患 (疾患②)
12	消化器疾患 食道 胃 腸 肝臓 胆のう 膵臓 (検査)
13	消化器疾患 食道 胃 腸 肝臓 胆のう 膵臓 (疾患①)
14	消化器疾患 食道 胃 腸 肝臓 胆のう 膵臓 (疾患②)
15	泌尿器疾患 腎臓 尿管 膀胱 尿道 (検査)
16	泌尿器疾患 腎臓 尿管 膀胱 尿道 (疾患①)
17	泌尿器疾患 腎臓 尿管 膀胱 尿道 (疾患②)
18	内分泌疾患 (検査 疾患)
19	生殖器疾患 (検査)
20	生殖器疾患 (疾患①)
21	生殖器疾患 (疾患②)
22	神経疾患 (検査 疾患)
23	整形外科疾患 (検査 疾患①)
24	整形外科疾患 (疾患②)
25	アレルギー・免疫疾患 (検査)
26	アレルギー・免疫疾患 (疾患①)
27	アレルギー・免疫疾患 (疾患②)
28	血液・造血器疾患 (検査)
29	血液・造血器疾患 (疾患)
30	眼科疾患 (検査)
31 回	眼科疾患 (疾患)
32 回	がん 基礎知識 (がんとは何か 腫瘍の分類)
33 回	がん 基礎知識 (検査)
34 回	がん 基礎知識 (治療法)
35 回	リハビリテーション (目標 構成要素)
36 回	リハビリテーション (代表的な理学療法①)
37 回	リハビリテーション ((代表的な理学療法②)
38 回	若齢動物疾患 (検査 疾患)
39 回	高齢動物疾患 (検査 疾患)
40 回	終末期の迎え方 評価試験

動物臨床看護学実習

動物理学療法看護学科専門科目 2年 前期・後期 45時間 2単位 実習 必修

講師 友成公一 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務 【友成公一】動物病院において院長で医師として診察・治療
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	罹患動物を想定し、適正な診療補助や医療器具の操作、入院管理などを学び、医療看護の技術を身につける。また、一連の学習を通じて、医療過誤を未然に防ぐ能力を養う。
学 び の キーワード	動物看護記録、病院マネジメント、用途別保定法、院内衛生管理、医療廃棄物処理法、入院管理、輸液療法、救急医療、救急医療の手技
準備学習及び復習の内容・履修条件	動物看護入門Ⅰ、動物看護基礎実習で受講した内容を復習しておくこと。講義用テキストで、実習と関連のあるところを予習しておくことが望ましい。付属動物病院院長の許可を受ければ、実習内容の復習を付属動物病院で行っても良い。
授業方法	回数3コマ分をひとくくりとして実習を行う。付属動物病院である<動物の病院>が実習場所となり、実際の医療器具や薬品・消耗品を使って行う。必ず白衣を着用して実習に望むこと。必要に応じて資料を配付するが、メモ帳を携行して重要事項を書き留めておくこと。医療器具撮影の限りにおいて、携帯電話の携行を許可する。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備考	動物看護の教科書第6巻（緑書房）その他
回数	授業内容
1～3	バイタルチェックを中心とした動物基礎情報のカルテ記入やカルテ記号・カルテ用語を学ぶ。
4～6	動物病院のカルテに記載されている内容を把握し、理解できるようになる。

7～9	医薬品や処方食等の管理及び各種伝票処理を学ぶ。処方箋と調剤用語を理解して、調剤手技を身につける。
10～12	犬猫に各種注射をする時の保定法や駆血法を学ぶ。
13～15	院内の衛生管理全般について学ぶ。医療廃棄物処理法について覚える。
16～18	入院管理の基礎について学ぶ。
19～21	疾病別入院管理の注意点について学ぶ。
22～24	輸液療法の適切な操作法を身につける。
25～27	輸液剤の種類・目的・用途について学ぶ。
28～30	救急医療の基礎について学ぶ。
31～33	救急医療を施す必要のある主な疾患について学ぶ。
34～36	呼吸器・ショック・DICについての救急医療とその手技について学ぶ。
37～39	循環器・消化器についての救急医療とその手技について学ぶ。
40～42	尿路閉塞・異常分娩・てんかん・中毒などその他の救急医療とその手技について学ぶ。
43～45	器具の操作法を問う実技試験と確認のための筆記試験を行う。

動物臨床看護学総論

動物理学療法看護学科専門科目 1年 前期・後期 30時間 2単位 講義

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	動物看護過程の一連のプロセスを学び事例ごとの個別性に重きをおいた動物看護の基本的な考え方を修得する。
学 び の キーワード	チーム獣医療 チームナーシング方式 動物看護過程 動物看護記録 QOL ターミナルケア
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書の該当部分を読んでおくこと。各授業後にはノートの復習をすること。
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	動物看護の教科書1巻(緑書房)
授業回数	
1	動物看護とは 日本の看護の歴史
2	チームナーシング 動物看護過程の制定
3	動物看護過程と構成要素 (アセスメント)
4	動物看護診断 動物看護計画について
5	動物看護実践 動物看護評価について
6	診療記録簿の作成方法 カルテ用語
7	QOLについて 死の看取りについて
8	ターミナルケアについて
9	ペットロスについて(死別と悲嘆)

動物臨床検査学

動物理学療法看護学科専門科目 2年前期・後期 60時間 4単位 講義

講師 藤田圭佑 野瀬修央

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務 【野瀬修央】動物園における獣医療・研究・種の保存に係る業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得する。
学 び の キーワード	血液検査 尿検査 糞便検査 細胞診 病理組織学的検査 遺伝子検査 凝固系検査 心電図 超音波検査 X線検査 内視鏡 神経学的検査 皮膚検査 眼科検査 CT/MRI検査
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を読んでおくこと。各授業後のノートの内容を復習すること
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	
授業回数	
1 回	血液検査（CBC検査）
2 回	血液検査（血液生化学検査）
3 回	血液検査（血液凝固検査）
4 回	糞便検査（直接法）
5 回	糞便検査（浮遊法）
6 回	尿検査（試験紙検査 尿比重）
7 回	尿検査（尿沈渣）
8 回	細胞診 病理組織学的検査 遺伝子検査

9回	X線検査①（目的 意義 実施方法 体位）
10回	X線検査②（検査方法 造影検査 現像 被ばく）
11回	超音波検査①（目的 体位 保定法）
12回	超音波検査②（実施方法 Bモード Mモード）
13回	心電図検査①（目的 意義 保定法）
14回	心電図検査②（実施方法 血圧測定 評価の仕方）
15回	内視鏡検査①（目的 意義 機械の名称）
16回	内視鏡検査②（準備 実施方法 洗浄）
17回	CT/MRI検査（検査概要 実施方法 ）
18回	神経学的検査（姿勢反応 脊髄反射 検査方法 評価）
19回	皮膚検査 眼科検査（皮膚の検査方法 眼科検査の方法 意義 ）
20回	評価試験

動物臨床検査学実習

動物理学療法看護学科専門科目 1年後期・2年前期 78時間 3単位 実習 必修

講師 野瀬修央

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【野瀬修央】動物園における獣医療・研究・種の保存に係る業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	診療現場に必要な生体検査や検体検査の基本的な手技・応用力を身につけ、動物看護師の役割を理解し、手技を習得する。
学 び の キーワード	尿検査・糞便検査・血液検査・眼科検査・耳の検査・皮膚科検査・x線検査・超音波検査・内視鏡検査など
準備学習及び復習の内容・履修条件	講義で習得した検査の知識と検査の基本的な手技を復習し、基本的な手技の反復と応用力をもって正確性を身につける。実習後、検査手技及び検査の流れを復習する。
授業方法	学校付属の動物病院にて実際に動物を使って検査の流れ（検体採取、検査実施、結果の考察）を複数回行い、基本的な手技を理解し、応用力を身につける。期末試験を実施して学習理解度を高める。
成績評価基準	実習試験において、検査の流れを理解し、実践できること。
備 考	
授業回数	
1～3	動物の状態を把握し基礎情報を収集、カルテに記載できるよう記入法を学ぶ。
4～6	検査に必要な検査用具と検査の目的を学ぶ。
7～9	犬・猫の扱い方と保定に必要な知識と技術を学ぶ。
10～12	エリザベスカラーの使用目的と使用法、口輪の使用法を学ぶ。
13～15	エキゾチックアニマル（哺乳類）の扱い方と保定を学ぶ。
16～18	エキゾチックアニマル（鳥類、爬虫類）の扱い方と保定を学ぶ。
19～21	眼科検査、耳の検査の目的を理解し、検査時の保定を学ぶ。
22～24	各種注射法を理解し、採血・各種注射時の保定を学ぶ。
25～27	レントゲン撮影の仕組み・操作法を理解し、適切なポジショニングと保定を学ぶ。

28～30	心電図検査、超音波検査の仕組み・操作法を理解し、適切なポジショニングと保定を学ぶ。
31～33	皮膚、被毛、眼、耳、口腔の身体検査の正常と異常について学ぶ。
34～36	筋肉、リンパ節、呼吸器、消化器、泌尿生殖器系の身体検査の正常と異常について学ぶ。
37～39	バイタルチェック①、体温、脈拍、呼吸数、体重、各項目の測定手技と正常値を学ぶ。
40～42	バイタルチェック②、股動脈圧、CRT、尿生産量、血中酸素飽和度、各項目の測定手技と正常値を学ぶ。
43～45	幼若動物、老齢動物の身体検査と全身評価について学ぶ。
46～48	聴診器の使用法を理解し、呼吸音、心音の正常音と異常音について学ぶ。
49～51	調剤①、医薬品の扱い・管理・廃棄・処方箋について学ぶ
52～54	調剤②、医薬品の種類、調剤方法、投薬方法について学ぶ。
55～57	創傷管理、褥瘡管理について学ぶ。 包帯法の種類、目的を理解し、包帯法の手技を学ぶ。
58～60	温湿布、冷湿布の目的、手技を学ぶ。 吸引法の目的を理解し、手技を学ぶ。
61～63	衛生管理（消毒薬、消毒法）の目的と手技、感染症について理解する。
64～66	医療廃棄物、感染性廃棄物について理解し、動物病院内の衛生管理について学ぶ。
67～69	輸液、補液の目的を理解し、輸液、補液、血管留置の手技を学ぶ。
70～72	輸液ポンプの構造を理解し、輸液ラインの接続、設定を学ぶ。 皮下点滴の目的を理解し、皮下点滴の方法を学ぶ。
73～75	各種検査手技の確認をし、正確性、迅速性の習熟度を高める。
76～78	各種検査法の理解度を試験により確認する。

伴侶動物学

動物理学療法看護学科専門科目 2年 後期 19時間 1単位 講義

講師 藤田圭佑

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【藤田圭佑】動物病院における動物看護・受付・診察補助業務
学科・クラス指定等	動物理学療法看護学科
学習目標	近年のコンパニオンアニマルの種類多様化に伴い、小動物臨床現場で遭遇する動物達も増えてきている。種の異なる動物を正しく理解し扱える動物看護師を目指し、必要な基礎知識を修得する。
学 び の キーワード	ウサギ モルモット ハムスター フェレット 小鳥 大型インコ類 猛禽類 爬虫類 両生類
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を読んでおくこと。各授業後のノートの内容を復習すること
授業方法	全ての講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて、段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	動物看護の教科書 2巻（緑書房）
授業回数	
1	ウサギ（疾病 保定法） モルモット（疾病 保定法）
2	ハムスター（疾病 保定法） フェレット（疾病 保定法）
3	小鳥（疾病 保定法） 大型インコ類（生態 習性 保定法）
4	猛禽類（生態 習性 疾病） 爬虫類（生態 習性 保定法）
5	両生類（生態 習性） 評価試験